

OSK KHJ岡山きびの会

平成12年9月20日第3種郵便物認可（毎月25日発行）

平成24年9月23日 OSK 増刊通巻1470号

<http://kibinokai.ciao.jp> 「メッセージ・21」

第108号（平成24年9月）



ゴーヤ色付きました

「KHJ岡山きびの会」のご案内

2012年度の年会費：正会員年会費＝6000円、賛助会員年会費＝3000円

各月例会の参加費：正会員＝500円、正年会員以外の方の月例会参加費＝1000円

ご入会・ご寄付は何時でも受け付けております。年会費未納の方はお納めください。

郵便振込先 01380-6-77803 KHJ岡山きびの会

「KHJ岡山きびの会」連絡先

〒700-0944 岡山県岡山市南区泉田56番地5 萩尾事務所内

会長 萩尾寛江（電話・FAX 086-264-5183）

KHJ電話相談室 花谷幸芳（080-1908-3861）不在時あり

居場所・上之町ビル4階 岡山市北区表町一丁目4-64

月・11～16時、水・11～16時、金・11～16時、土・13～18時

曜日によって担当者が変わります。連絡時間など、詳しくは最終頁をご覧ください。

「KHJ岡山きびの会」の願い

不登校・ひきこもりの子どものことで悩んでいる親どうしが情報を交換し、親の気持ちが癒され、元気づけられ、「この子がいてくれて本当に良かった」と心から思えるようになることを目指します。そして本人たちが、自分の意志と選択と決定において、生き生きとして社会参加できるようになることを支援します。

<9月例会>

日 時 平成24年9月9日(第2日曜日) 13時 ~ 17時
場 所 ゆうあいセンター(岡山市北区南方2丁目13-1) TEL (086-231-0532)
旧国立岡山病院・きらめきプラザ2F 大会議室全室
内 容 *講師: 小阪美穂子
(家族心理士・家族相談士資格認定機構: 家族心理士・家族相談士) 他
*演題: 「日常の流れを変えてみよう」
*ひきこもり相談会(役員による来談者へのオリエンテーション)
参 加 費 月例会の参加費、
正 会 員 500円
正会員以外 1000円

<10月例会のおしらせ>

日 時 平成24年10月14日(第2日曜日) 13時 ~ 17時
場 所 ゆうあいセンター(岡山市北区南方2丁目13-1) TEL (086-231-0532)
旧国立岡山病院・きらめきプラザ2F 大会議室全室
内 容 *講師: 蔵谷陽子
*演題: 「親として」と題して
*ひきこもり相談会(役員による来談者へのオリエンテーション)
参 加 費 月例会の参加費、
正 会 員 500円
正会員以外 1000円



この会にかかわって、今、私の感じていること

萩尾 寛江

今回も、引き続き、皆さんで考えましょう。ということで、私がカウンセリングをした中で話し合うテーマを分析して出しました。よく相談される内容ですが「死んだあとが困る」「死んだあとが心配」と言われますがその準備はされているのでしょうか。財産の残し方、病気したときのこと、また、親自身の介護が必要になったときなど本当に必要なものは御心配しないで、子どもの就職ばかり考えているだけでいいのかなと感じます。40歳を過ぎていきなり就職も無理ですし、少しの時間をとって考えていただきました。親の願いは痛いほど理解できますが、やはり、最悪のことにも目を向けて先のことも考えてほしいと思います。子どもが二人以上いる場合、いくら仲の良い兄弟でも親亡き後、財産争いで、疎遠になり孤立無援にあることも、今の時代は考える必要があると職業柄感じています。本当にひどい時など千円単位でも起きることもあります。また、ひきこもっている子どもばかりに両親が目を向けている場合、疎遠になりがちでこれまた争いの原因です。それでは行政に頼ればと言われても、財政悪化の時代、福祉にはきびしくなると思います。障害年金をもらうのが良いとわれますが、年金のことをよく知って手続きをしていかなければ親が亡くなって五百万円以上のお金が入ると年金がもらえなくなるとか、国民年金だって免除期間があれば少なくなります。そうすると生活できなくなると思います。ひきこもった子どもがもらうのは障害年金か国民年金だと思います。自分や子どものことを含め生活の見直しも考えてみる必要性を考えます。カウンセリングをしていて痛切に感じます。

また、カウンセリングの中で感じている考え方や行動癖など、みなさんにいろいろ考えていただきました。たとえば、物事これほどまでにマイナス思考なのかと思います。「口癖は口癖を呼ぶ」と何かの本に書かれていましたが気がついた人が変えていかなければ幸せにはなれません。また、自分が正しくて、周りが間違っていると思って（私にはできたがなぜ、子どもができないとか、私は当たり前前の考えなのに相手はなぜ怒るの……）人間関係のトラブルになることなどないでしょうか。夫婦間、親子間ではありませんか。そして、自分自身が不幸なのに自分以外の方が助けられますか。まず、周りはどうであれ自分自身が幸せでなければいけないのではと考えています。

子どもが1日も早く社会に出られる日を希望しながらも、一方ではいろいろな知識を得ておく必要もあるような気がします。

オレンジの会を視察して、子どもたちが居場所に来られるような居場所のシステム作りが必要です。みなさんで少しお手伝いをしてください。人のお子さんの援助をしているとまたそのことがよい結果となり、自分の子どもの立ち直るきっかけになると思います。みなさんの参加をお待ちしています。ともに歩いていきましょう。

京都オレンジの会視察

ライブステージは市営地下鉄東山下車2分、道路を挟んで向かい側、立地条件の良さが実感できた。午前10時ころより若者が三々五々集まり、すでにランチ作りが始まっていた。

居場所はライブステージから徒歩10ほどのところで路地を入った京都の雰囲気を感じられる静かな場所だ。ここにはギターを弾ける若者がいて、現在はライブ中心の活動中。スタッフとしても活躍している。陶芸教室もあり講師を招いて楽しくやっている様子。いろいろな人が集まり一緒にたのしく遊ぶ。企画を一緒に考える。あくまで若者を中心に。この若者中心ということに納得した。とにかく楽しくを中心に第1条件に若者が安心して集える居場所の確立を急ぎたい。

尾形松子

オレンジの会は平成7年「ひきこもった子どもの親の会」という母親の集まりから始まり、素晴らしい活動をされています。参考になった点を記述します。

- 1、きちんとした事務所があり理事長さんとスタッフが常時対外的なことや相談に乗っていること
- 2、別な場所に居場所があり、その人にあった場所が提供されている（続かない人もあるができる範囲で）
- 3、当事者だった青年たちが中心で自分たちの活動を計画し実践（スタッフがホロー）

このようなことを学びました。今回はオレンジの会だけですが、もっと成功している他のところも参考にしていきたいと思いました。この会として大切なことは子どもたちが今の状態から一歩でも前進するために何をしたらよいかみんなで検討し活動していくことが大切だと思いました。

小阪美穂子

多くのことを学びました。ここもオレンジの会を手本にやりたいと思いました。私のしたいことすべてがそろっていました。

まずはひきこもった子どもにも責任の概念を教えていることでした。居場所に来る人には住所と連絡先を書いてもらうことです。「住所と連絡先ぐらいは書いてもらおうよ」と言うと「やっと来ているのに そんなもの書けないで」と反対にあいます。京都では書かれています。少しずつでも、社会性を身につけさせる訓練になると感じました。そうした一つ一つの積み重ねが大切だということ感じました。そして、やるべき方向は間違っていないと確信しました。報告書は作成しています。前回の参加者には配布しましたが、居場所にありますのでご覧ください

萩尾 寛江



子ども・若者支援ネットワーク形成のための研修会に参加して

1部では橋下知事時代も市長になってもいろいろやってくださいと部下のアイデア次第では力を入れている様子を話されました。その中で気になったのは教育委員会には入りづらい。独特なものがあるのでと言いづらそうに話されていたこと、NPOがネットづくりの中にいるとよいと、政治力でよい施策ができるのではとも話されていたのが印象に残りました。やはり、どこも教育委員会は難しいと思いました。

2部では斎藤先生は反社会的（非行・暴力・・・）などにはやさしいが非社会的（ひきこもり・路上生活・・・）には厳しい社会。ひきこもりも路上生活者も同じで違うのは家にいるか路上にいるかだけ、働かないものは食うべからずという考え方が日本にはあるからだ。ひきこもりは長期化するほど難しいとも話され、なるほどそうだと思います。だとすると社会に対するアピールだと思います。

ひきこもりの80%は何らかの障害と言われている。DSM4で診断すると解離性人格障害と言われてしまうだろう。今の社会はコミュニケーションを重視しているので下手だとアスペルとレットルをはられる。なんでもないのにアスペルガーと診断される。1度の診断ではわからないし、それが親も子どももトラウマになる。ラベリングしたがる。専門家が最低でも3カ月以上診察して決める必要性を感じる。今はそろばん塾の講師（主婦）までアスペだと騒ぎまくる時代で、偏見を持つ風潮があると思います。

ひきこもり年齢が上がってきている。昔は不登校から、今は社会に出てからひきこもる。

引き込もつても昔はいろいろできたと言っても2カ月も人と話をしなければ役場にも銀行にも行けないのが当然。よく、ニュースなどひきこもった子どもを殺して死ぬ、看病疲れで親を殺すなどニュースで見るが、一般的にはひきこもった子どもは親を恨んでいる。居場所と高齢者のシルバーセンターなどと組んで派遣などできればよい。

ひきこもりが多いのは日本・韓国。イタリア・スペイン。これらの国は親子同居の国。徴兵世度がよいという人もあるが終わってからひきこもる。

ひきこもりの原因は夫婦問題・スクールカースト（学歴社会？）・社会的孤立で、日常的な関係作りが大切だとも話され、日頃、皆さんに話していることは間違いではないと思います。

自殺者が日本は多いが男女比は1対2の割で男性が多い。男性は会社人間、女性はその点では友人作りがうまい。環境調整が大事、薬には限度がある。労働に関係のない活動や社会参加も大切、生存できる環境で人間に認められることが大切だ。自発性をどう出すかが大切である・・・というようなことを話されました。この話を聞きながら、今思っている居場所の改革、会の改革を進めていくには構成は間違っていないと思います。人材をどのように確保するかなと思っています。みなさん、自分の得意な分野を協力していただいて、ひきこもりの人が社会に出られる窓として、また困った時の駆け込み寺として活動していきたいと感じました。それには皆さんの協力が大切です。

萩尾 寛江

8月21日宝塚大学での講演会に出席して

12月にお呼びする宝塚大学目良先生のお誘いで会長に同行しました。梅田界限の変貌に驚きました。何事も参加することに意義があり少しずつ社会に目を向けてみようと思いました。

- ▶ 心に残ったのは非社会性（ひきこもり・路上生活者など）と反社会性（暴力・非行等）があり非社会性にはきびしい
- ▶ 家族への支援の大切さ
- ▶ 職場での安心と信頼ができるような環境の確保

尾形 松子

8月例会の感想

- ▶ それぞれの家族の親子関係や子どもの具体的な状況を聞きながら自分の考え方が深まっていくので、こう言う話し合いは私には良かったです。
- ▶ 今回の話し合いは、自分の現状と過去を話すことができよかったです。もう少し時間が欲しかったです。「自分の行動を考えてみよう」という本論からは、やや離れた話もしてしまったのですが、印刷された課題についてはほぼ話ことができました。
- ▶ これからの子どもの生活に関することも今まではあまり考えていなかったもので、これからは考えていかなければいけないと思いました。すこしずつですが話ができるようになりました。会に来て成長したと思います。
- ▶ 皆さんの話を聞いて、ひきこもりの子を抱える親の気持や本音を知ることができました。子どもは大切な存在だけど、子どもとの距離感がもどかしいなと感じました。参加させて頂きありがとうございました。
- ▶ 例会では色々と勉強をさせてもらっていますが、なかなか実践がともないません。私（親）の実行力不足、マイナス思考があるのかなと思います。
- ▶ 今日の話し合いは、けっこうむずかしい議題で自分の亡き後とか、生活とか、ぜんぜん考えていなかったもので、どういう風に考えて行ったらいいのか、・・・
- ▶ 「高齢化するひきこもり」をぜひ読んでみようと思っています。親として死に方を子どもに見せられるように、考えをまとめたと思います。自分の生活を楽しむという事は、子どもも生活を楽しめなければ。
- ▶ 今日の話し合い（グループ）は、問題提起が一人ひとりに行われた。テーマにそって、自分はどうか？と向きあって考えてみた。私にとって親として、次男のことは、現在のままで良いのか、これからどうしていくべきか、考える時間となった。特に「親亡き後」については大切なことなので、また情報が聞きたい。

お知らせ掲示板

◎茶話会のご案内 13時30分より

日 時：9月21日（金曜日） 阿部まで 電話：086-262-2743

会 費：300円

申し込み（前日までに）

わいわいと楽しいひと時をすごしませんか。多数の参加、お待ちしております。

8月の茶話会の感想

お盆前の忙しい頃だったので、集まりは悪いだらうと思っていました。前日、申込みの電話を頂きました。「男性でも良いでしょうか?」「大歓迎です・・・」と。当日、予約された方と後三人も暑い中、出かけて来て下さいました。手作りのお菓子、お土産のお菓子等楽しく話題も広がります。ここでしか聞く事のできない話、ここでしか話せない話。皆さん、ここへ来て話しませんか?

聞いてみませんか?

菅原さん推薦図書

◎みんなネット 2012年7月号 発行：公益社団法人 全国精神保健福祉会連合会 ¥300-

月刊「みんなねっと」は、精神障がいのある本人や家族に向けてつくっている機関誌です。

解説：山形市の家族会「こまくさの会」の紹介の中で「本人が、子、家族が、親。以外の！」家族のケアを中心としたテーマも新しい見方と思います。若い家族のケアというテーマも今後重要になると思います。次号の8月号では「引きこもりの支援と居場所づくり」と題されたが特集が掲載されています。山梨県市川三郷町の取り組み、東京 引きこもり親の会 ご期待ください。

◎新聞感想

読売新聞7月20日付の記事で大阪府枚方市にある精神しょうがい者が中心となって参加・活動している人形劇の劇団を紹介していました。そこでは、本人、ボランティア、職員の方々がクローズアップされています。作品としては童話が中心ですが去年から病気の解説した劇を創作しています。この創作した劇は市民への啓発で締めくくっています。このことは注目に値します。

		9月		居場所カレンダー		
日	月	火	水	木	金	土
26	27 居場所	28	29 居場所	30	31 居場所	1 居場所
2	3 居場所	4	5 居場所	6	7 居場所	8 居場所
9 月例会	10 居場所	11	12 居場所	13	14 居場所	15 居場所 松田相談日
16	17 祭日、休み 敬老の日	18	19 居場所 西教室	20 PC教室	21 居場所 茶話会	22 祭日・休み 秋分の日
23	24 居場所 役員会	25	26 居場所 花の絵	27	28 居場所	29 居場所
30	1 居場所	2	3 居場所	4	5 居場所	6 居場所
10月						
日	月	火	水	木	金	土
30	1 居場所	2	3 居場所	4	5 居場所	6 居場所
7	8 祭日・休み 体育の日	9	10 居場所	11	12 居場所	13 居場所
14 月例会	15 居場所	16	17 居場所 家族教室	18 PC教室	19 居場所	20 居場所 松田相談日
21	22 居場所 役員会	23	24 居場所 花の絵	25	26 居場所	27 居場所
28	29 居場所	30	31 居場所	1	2 居場所	3 文化の日

月例会： 原則第2日曜日、きらめきプラザ2F・ゆうあいセンターにて、13～17時

居場所： 年末年始とお盆と祝日は休み。利用料は頂いておりません。

利用時間： 月、水、金曜日は11時～16時まで、土曜日は13時～18時迄

担当： 月曜日は、萩尾寛江カウンセラー(086-264-5183) 17時過ぎて連絡ください。

水曜日、金曜日、は各担当者の輪番制、土曜日は山本利美カウンセラーが居ます。

西家族教室： 13:30～16:00 西紀子カウンセラー、毎月第3水曜日、参加料2000円

松田相談日： 松田勝カウンセラー、原則第3土曜日、9～18時、定員8名、

予約先・中西：TEL090-9500-9618&086-955-2857 金額：会員は1時間3,000円

萩尾勉強会： 萩尾寛江先生選択理論勉強会、原則第2月曜日、14～16時、

問い合わせ先・萩尾寛江カウンセラー(086-264-5183)、参加料500円

PC(パソコン)教室 第3木曜日、月一回、13:30～16:00、ワードとエクセルを中心に

して練習します。詳細は花谷(080-1908-3861)まで。原田講師が丁寧に対応します。

今後の月例会の予定、10月、11月、12月、1月、2月(第2日曜日)予約済みです。

平成12年9月20日第3種郵便物認可 (毎月25日発行) 平成24年9月23日発行 OSK増刊通巻1470号
発行所 岡山障害者団体定期刊物協会 702-8025 岡山市浦安西町74-9 脇 妙子(Tel086-263-7537)

無断での掲載、転写は禁じます。(定価100円は会費に含まれています)